第３回当別町総合計画審議会　要旨

１　日時

令和８年 11 月９日(月) 15 時 00 分から 16 時 30 分

２　場所

当別町役場第２庁舎 ２階会議室

３　出席者

下段委員、和田委員、宮永委員、松岡(良)委員、曽川委員、難波委員、坂野委員、九笹委員、勝山委員、髙橋委員、佐藤委員（11/17 人出席）

４　町出席者

企画部長　山田雅俊、企画課長　星野寿幸、企画係長　高田龍一、企画係主任　田中大樹、企画係主事　乾　拓朗

５　傍聴者

なし

６　審議会要旨

開会に先立ち、委員の異動に伴い、新たに就任した坂野委員を紹介。

⑴　会長挨拶

本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。今年も残すところ１か月半ほどとなりましたが、本日も皆さんと総合計画について審議し、計画策定に向けて考えていきたいと思います。様々なご意見をいただきながら活発な議論ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

⑵　当別町第７次総合計画（素案(改訂版)）について

事務局より資料１及び資料 1-2 をもとに説明。（説明：星野課長）

（髙橋委員）

当別町独自の教育とはどのようなものか。また、町の教育を対外的に説明する際の特色や、開拓の歴史などをどのように位置付けているのか伺いたい。

（事務局）

町の教育は、総合計画の下に教育大綱を位置付けて進めている。教育大綱では、開拓当初から教育を重視してきた歴史を踏まえ、現在の教育に生かす考え方を基本としている。

（坂野委員）

３ページの「計画策定の考え方」は、社会経済情勢の変化、町の課題、町の強みを単純な足し算で示しており、関係性が分かりにくい。外部環境と内部環境、それらから生じる課題、将来像へ至る流れ

が伝わる見せ方にした方がよい。また、第６次総合計画の振り返りと第７次総合計画への反映関係が十分に読み取れない。

（事務局）

「計画策定の考え方」の図は、町の強みを生かし、社会経済情勢の変化に対応しながら課題を解決する趣旨で作成したが、足し算の表現を含め、町民により分かりやすい見せ方を検討する。第６次総合計画については、町勢を示すまちづくり指標を設定し、計画期間終了後に確認することとしている。また、総合戦略推進委員会で毎年度進捗を検証しており、その結果を第７次総合計画の策定に生かしている。このつながりが伝わる記載について検討する。

（坂野委員）

８ページの「町の将来像」はいつ決定するのか。

（事務局）

町民アンケートやトウベツフェスで寄せられた意見を踏まえ、本日の協議事項として案を示す。次回審議会までに一定程度整理し、計画案に盛り込みたい。

（佐藤委員）

再生可能エネルギーの利用推進に記載する「太陽光、水力等」の「等」には風力発電も含まれるのか。過去に町が反対した風力発電事業を再び推進する趣旨ではないことを明確にしてほしい。

（事務局）

「等」は、将来の技術進展も含め、太陽光と水力以外の再生可能エネルギーの可能性を排除しない趣旨である。過去に中止となった風力発電事業を再び推進する意図はない。一方、場所や方式、技術等が異なる新たな可能性まで一律に排除するものでもないため、現時点では「等」を削除する考えはない。

⑶　町の将来像の案について

事務局より資料２をもとに説明し、次の７案を示した。（説明：星野課長）

案１　みんなで支え合い 挑戦とにぎわいが生まれるまち（とうべつ）

案２　地域のつながりを力に 未来を切り拓くまち（とうべつ）

案３　自然と地域の魅力を活かし 成長し続けるまち（とうべつ）

案４　自然を活かし 人をつなぎ 未来へと成長するまち（とうべつ）

案５　未来へ挑戦し 成長し続けるまち（とうべつ）

案６　人と地域が共に成長できるまち（とうべつ）

案７　人がつながり ともに成長できるまち（とうべつ）

（佐藤委員）

括弧書きで「とうべつ」を付けている理由は。

（事務局）

「当別」を入れるか否かも含めて意見を伺うため、現段階では括弧書きとしている。

（九笹委員）

どのような場面で使用するものか確認したい。

（事務局）

総合計画の基本構想に掲げ、今後 10 年間の町の目指す姿として、町の紹介や各種広報等でも活用することを想定している。

（下段会長）

複数の案が提示されているが、事務局ではどの案が良いというものはあるか。

（事務局）

自然や緑といった表現は他自治体でも多く使われており、差別化が難しい面がある。当別町らしさが伝わり、今後どのように変わっていくのか、先を見据えた発信力のある表現が望ましいとも考えている。事務局としては案 1、3、5 が比較的適しているのではないかと考えている。

（和田委員）

将来像は、町のイメージを説明するだけでなく、町がこれからどうなるのか、どう変わるのかという未来志向の内容を盛り込むべきである。

（宮永委員）

8 ページの基本施策の説明文と似た文章型の表現ではなく、施策全体を束ねる、短くインパクトのあるメッセージ型の表現を検討してはどうか。

（坂野委員）

7 案はいずれも抽象度が高く、共感できる具体像が見えにくい。「成長」や「未来」が何を意味するのか、町民によって受け止めが大きく異なる可能性がある。将来像として町が目指す姿をもう少し明確にする必要がある。

（松岡(良)委員）

一方で、今後の当別町の方向性を考えた時には「挑戦」「にぎわい」「成長」など前向きな言葉は盛り込んでほしい。自然や地域といった一般的な表現に限定せず、デジタル等の新しい要素も検討してはどうか。

（下段会長）

様々な意見をいただきありがとうございます。本日の会議で決定するものではないので、将来像についての意見があれば、意見書により提出いただきたい。

（宮永委員）

計画の中で、道路網（道央圏連絡道路）や JR など、当別町の交通上の優位性や将来的な可能性も町の将来像を検討する上で考慮してほしい。

（事務局）

今後 10 年間は、北海道医療大学の移転等を含め、町が大きな転換期を迎えるとの認識にある。このため、自然の豊かさだけでなく、「挑戦」や「成長」など、町から前向きに発信する姿勢を将来像に込めたいと考えている。本日の意見及び後日提出される意見書を踏まえ、次回審議会に向けて案の整理方法を検討する。

⑷　次回開催日程について

事務局より、次回の第 4 回審議会は 12 月 2 日（水）午前 10 時から開催予定である旨を説明。確定後、改めて電子メールで通知する。

⑸　その他

町の将来像を含む本日の議題について、追加意見がある場合は意見書に記載し、11 月 16 日（月）までに事務局へ提出するよう依頼。

以　上